令和３年度　授業改善推進プラン

東久留米市立南中学校　第１学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、〇、●）
国語	・長文を書くことに苦手意識のある生徒や時間がかかる生徒がいる。	・「書く力」から良い作文を紹介し、それを踏まえて、もう一度自分の意見を深めて短作文を書く。	◎ ８０％の生徒が朝学習の時間内で書き終わるようにする。
社会	・資料から読み取ったり考えたりすることが苦手な生徒がいる。	・資料を読み取る活動を増やしたり、タブレット端末を活用し、他生徒の意見を見えるようにしたりする。	◎ ８０％以上の生徒がワークシートなどの作業内容ができるようにする。
	・地理的分野、歴史的分野における基本的知識の定着が不足している生徒がいる。	・授業で単元ごとに小テストを実施する。	〇 小テストで正答率を６０％にする。
数学	・小学校の基本事項の理解が苦手な生徒が東京ベーシックドリルの結果から１０％近くいる。	・基礎基本のプリントに取り組ませ学習の定着をはかる。	〇 東京ベーシックドリルへの取り組み結果最下層を５％にする。
	・数学的に表現することに苦手意識のある生徒が見られる。	・授業や課題では、振り返りシートやレポート課題などで数学的に表現する機会を設けていく。	◎ ８５％以上の生徒が、単元ごとの振り返りシートでは数学的に表現できるようにする。
理科	・観察/実験からの結果と既習事項を関連付けて考察することが苦手な生徒がいる。	・実験について話し合う活動を増やしたり、タブレット端末を活用したりして、自分で調べる時間を確保する。	◎ ８０％以上の生徒がレポートについてＢ評価以上の内容ができるようにする。
音楽	・音楽の諸要素や音楽用語についての知識が定着していない生徒がいる。	・基本的な用語の意味は授業内で確認しながら学習を進める。参考となる記述や発言を積極的に紹介し、語彙力を増やしていく。	〇 ６０％以上の生徒がプリント等で音楽の諸要素や音楽用語を用いて自分の考えを述べられるようにする。
美術	・鑑賞活動で、学習した内容をその場では理解できるが、定着が難しい生徒がいる。	・学期に１回、作品の様子を言語で描写する方法を確認する授業を行う。	〇 ８０％以上の生徒が、作品の様子を言語で描写する方法でＢ評価以上の取り組みをできるようにする。
保健体育	・学習した内容を理解することはできるが、体の動かし方に繋げることが難しい生徒がいる。	・視覚教材を活用して、手本になる動きや、自分の動きを客観的に見ることを通して学ばせる。	〇 学習カードの自己評価において、「できた」「概ねできた」の生徒を８０％以上とする。

技術	・授業で身に付けた知識や考え方を生活や社会の問題解決に生かせることを意識できている生徒が少ない。	・授業の初めの発問で疑問をもたせ、授業の内容が問題解決に生かせることを実感できるようにする。	○ ８０％以上の生徒が、身に付けたことを基にものづくり活動のまとめを書いているようにする。
家庭	・食生活に関しては、多くの生徒が興味・関心をもっているが知識を定着させるのには時間がかかる。	・基本的な知識内容については、小テストで定着させていく。	◎ 小テストを定期的に行い、達成度を確認し、半数以上の生徒が７０％以上を取れるようにする。
	関心は高いが、生活経験が少ないので食品と調理法を結び付けることができにくい生徒もいる。	・調理技能の定着のために、長期休業中に課題を設定して家庭での実践の機会を増やす。	◎ 各自生活の中での課題を見つけレポート提出、概ね良好のＢ評価の生徒８０％以上を目指す。
外国語	・単語を話すことができるが書くことができない生徒がいる。	・単語の書き取り小テストを週に一度行い、正しいスペルを書く能力を身に付けさせる。	○ 単元の単語テストの正答率を８０％以上にする。
特別の教科 道徳	・道徳的価値について、自分との関りで考える意識がまだ不足している生徒がいる。	・導入と終末で同じ道徳的価値について考える学習活動を行い、授業を通じて変容を自覚させる。	○ ワークシートやアンケートなどを使い、自分との関りで考えることのできる生徒を８０％以上とする。
総合的な学習の時間	・自分の考えをまとめ、伝えることの方法を増やすとともに発表内容の質を高めさせる。	・書画カメラの活用、タブレット端末を用いて、パワーポイントを作成し、活用した発表を行う。	○ 学期に１回、全員の生徒が発表する機会を設定する。